

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570500146
法人名	特定非営利活動法人 しみんふくしの家八日市
事業所名	しみんふくしの家八日市グループホーム
訪問調査日	平成19年 11月 27日
評価確定日	平成20年 2月 14日
評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2007年11月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2570500146
法人名	特定非営利活動法人 しみんふくしの家八日市
事業所名	しみんふくしの家八日市グループホーム
所在地	〒527-0033 滋賀県東近江市東沖野2丁目5-6 (電話) 0748-20-5457

評価機関名	社団法人 滋賀県社会福祉士会
所在地	〒520-2352 滋賀県野洲市富波乙681-55
訪問調査日	2007年11月27日

【情報提供票より】(平成19年11月12日事:記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・○平成 13年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	14 人	常勤 6 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.7	

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 500 円
	夕食	300 円	おやつ 200 円
	または1日当たり		1,200 円

(4)利用者の概要(11月12日現)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	72歳	最高	93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤本クリニック、宮路医院、井田歯科診療所
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業主体のNPO法人「しみんふくしの家八日市」は、人々が互いに支えあい、互いに尊敬し合いながら、住み慣れた我が家や町で自分らしい生活がいつまでも続けられるようにすることを理念として設立された。認知症の方々の家であるグループホームを中心に、法人の理念を実現しようと、グループホームの隣の部屋では保育事業が行われ、もう一方の部屋は地域の人々に交流の場として、あったか広場を無料提供し、午後はその場が学童保育所になる。また週1回は近所のボランティアが交代で、自分で来ることのできる高齢者を対象にサロンを運営し、こうしたいろいろな事業に、グループホームの利用者も参加している。地域の方がもっと気軽に訪問していただけるようにするにはどうすれば良いかと模索中である。また、医療との連携も大切であるとの思いから、医師会に働きかけ、全5回の医療フォーラムを企画運営するなど活発な働きが見られるグループホームである。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では改善課題は無かった。前々回の評価の改善課題を見てみたが、記録の取り方は話し合われて改められていたし、入居者の権利義務については、契約書に条項として取り上げられてはいないが、わかりやすく書かれた契約書を読めば、その中に適切に書かれていることが読み取れる。食後の歯磨きも、入居者それぞれの方法で取り組まれていた。評価を意欲的に受け止め、改善していることが理解できる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>常勤・非常勤職員14名全員が自己評価したものを、施設長が一つにまとめられた。日頃の生活の中から、改善課題をあげており、利用者お一人おひとりにとってより良い生活を支援するために、自己評価は厳しく、意欲的に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は3ヶ月に一度、開催されている。夏には夕涼み会を運営推進会議の協力を得ながら開催し、300人ほどの参加者があった。今回は、クリスマス会を計画中である。グループホーム、保育、学童保育からも職員が話し合いに参加して計画している。委員から地域にもっと知ってもらうために、「グループホームのたより」のようなものを配ってはどうかという意見が出て、プライバシーを考慮に入れながら検討中である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情はあまり出てきていない。利用者全員が東近江市の方で、家族はよく来られるので、意見が出た時は、納得していただけるように話し合っている。家族会があるが、家族でできることは言ってほしいとの申し出があり、積極的に協力していただけるようになってきた。重度化してこられ、個別の対応ができない時など、ご家族に協力をお願いすることができるようになってきた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>グループホームに住んでいる方に地域の職員となっていただくという思いで、施設内に多世代交流子育て支援事業のあったか広場、保育事業、学童保育事業、いきがいデイサービスなどの事業を展開し、地域の方々の出入りがある。そのほか夕涼み会やクリスマス会なども催しており、その場では地域の人々との交流がある。利用者は自治会に加入し、その催しには参加しており、いろいろな事業にも参加してその場では交流があるが、グループホームに気軽に遊びに来ていただく関係にはまだなっていない。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設当初から、人々が互いに支え合い、互いに尊敬し合って、認知症になっても、これまで住み慣れた我が家や町、地域で、これまでと同じような自分らしい生活が続けられる環境を作っていくことを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で、理念が実践できているか、という視点に立って、管理者、職員がともに話し合い、確認し合っている。常に原点に帰りながら、自分の身に置き換えることで、その人らしい生活が続けられる理念の実践をこれからも続けてほしい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会し、地域のサロンや行事に参加している。また、施設内にあるあったか広場では地域のボランティアによって毎週サロンが開かれており、地域の高齢者とともに、グループホームの入居者も参加している。グループホームの夕涼み会やクリスマス会には利用者と共に、多数の地域の人に参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、さらに良いグループホームにするために、真剣に取り組んでいる。今回も、職員14名全員が自己評価し、施設長が一つにまとめた。また具体的に改善していつている。全職員が参加し、一人ひとりの意見を尊重することで多くの気づきが得られ、それが改善に繋がっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域の方から、「グループホームがどういことをしているのか分からない。『たより』のようなものを地域に配ってはどうか。」という意見が出た。プライバシーの観点からどうしたらよいか検討中である。夕涼み会やクリスマス会は、この委員会を通して地域の協力が得られている。	○	近隣の13名のボランティアが手分けして毎週1回開催している「あったか広場での高齢者サロン」は、比較的遠い地域からの参加者が多い。グループホームの生活の紹介記事を作り、利用者や家族会で検討・了解を得たうえで地域に配るなど、ぜひ、となり近所の理解をさらに得る取り組みを企画していつてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治会単位の認知症に関する研修会の講師を引き受けたり、これからは医療との連携が必要になるとの思いから、行政とともに医師会に働きかけ共同の、5回にわたる医療フォーラムを企画運営するなど、理念を実現するために積極的に行政に働きかけている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者に変化があった時はそのつど連絡している。日頃の暮らしぶりについては、家族の訪問時に話している。また、個々に使ったお金やお楽しみ行事費等の負担金については、毎月、収支をそれぞれの家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に施設内の苦情受付窓口や、苦情解決責任者は明記している。また、外部の苦情受付窓口も記載、説明している。苦情は余り無い。意見については、家族の訪問時に家族の意見は素直に受け入れた上で、グループホームの方針を理解して頂く努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動は結婚により遠隔地に住むことになった一人だけである。常勤職員・非常勤職員とも開設以来の人が働いている。面接した職員の言葉から、ここで働けることを感謝しておられることを感じた。職員はともに近くに住む方が多く、グループホームのゆったりした雰囲気とともに、働きやすい職場となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が年2回は希望によって、外部の何らかの研修に参加している。勤務時間であったり、休日であっても、規定により費用が出ることになっている。また、運営者は昇給や賞与を出せるように努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者協議会の中のグループホーム部会に管理者が参加し、それぞれの事業所が抱える問題点等を解決に向けて相談したり話し合ったりしている。職員の交流はない。	○	同じ施設で長く働いている職員が多いので、ややもすると気付きの部分で、せっかくのチャンスを見逃しやすいこともある。機会があれば是非他のグループホームとの交流も視野の中に入れられたい。これは他のグループホームにとっても実りのあることであるので、今後検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居に際しては、2週間のお試し期間を設けている。これまでに1件だけ断ったことがあるが、それは、明らかに医療対象の人であった。他は、すべて受け入れている。開設当初は、時間をかけて、慣れられてから、徐々に入居していただいた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の時に、入居者がことわざのような言葉を言われると、職員がそれを受けて、「教えてもらってありがとう」というような対応をしていた。また、結婚が近い職員が、利用者「いろいろ教えてね」と話す場面もあり、なかなか雰囲気である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を取り入れたことで、今まで理解できなかった行動パターンの謎がとけるなど、本人の意向や思いが把握できるようになった。うまく言語で言い表せない利用者にとってはとても重要なことである。日々の生活の中での些細な「気づき」を書き留め、介護計画につなげるなど、利用者の思いや希望の把握に努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回開催されるミーティングは、原則として全職員が参加して開催され、各利用者の担当者を中心に日頃の気づきなども考慮しながら、介護計画を検討し作成する。担当者は意見を言うが、他の職員からは、あまり活発な意見は出ない。しかし、一緒に食事したりする場では、職員同士の意思疎通は図れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で気付いたことを書き留めており、一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。その中から、課題を見つけて介護計画に組み入れている。身の回りの実現しやすい課題が取り上げられ、取り組みの様子やその評価もきちんと記録され、現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営者は高齢者のサロンや保育事業や学童保育事業などいろいろな事業をグループホームの隣で展開している。一般の地域社会の中に普通にある事業が、ドア1枚で仕切られた空間にあることで入居者の自然な生活の実現が可能になっている。通院の付き添い代行など家族支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームと連携している医師はいるが、それぞれのかかりつけ医とのつながりも大切に考えている。それぞれのかかりつけ医への受診はほとんど家族が付き添っている。付き添う家族には日頃の様子を伝え、受診後は報告を受けている。非常勤の看護師がいるが、医師の往診は確保できていない。	○	グループホームと連携している医師も往診はしてくれない。行政、医師会等と連携し、5回の医療フォーラムを開催し、医師との連携のあり方を模索している。今後も続けてほしい取り組みである。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームの利用者で、今までに二人亡くなられているがお二人とも胃がんで最後は病院で亡くなられた。内お1人は点滴も自分で外してしまわれ、医療行為なしで1ヶ月後に亡くなられた。今なら退院しなければならなかったかもしれない。その時、もしグループホームだったら、何をすればいいのかと施設長は言われていた。	○	現状は看護師は非常勤であり、医師の往診もない状態である。看取りを考えると、医療との連携はこれからの大きな課題である。取り組みを期待したい。また運営者としてさまざまな場合を想定して出来ることと出来ないこと、どういう選択肢があるかなど考え、折に触れて家族と話し合いを積み重ねてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	必要以上の丁寧語ではない職員の言葉かけ、態度は穏やかで明るい。記録等は適切に扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食時も部屋で休んでおられる方があったが、声をかけて起きて来られなかったら、その方の分を取り分けておき、起きて来られてから食べておられた。買い物や散歩などもその人の思いにそって行っており、一人ひとりのペースを大切に支援されている。また職員だけでなく利用者同士もそれぞれのペースを認め合っておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆でワイワイ言いながら、職員は穏やかに立ち回り、利用者にその方ができることを頼み、見守りながらいただいていた。一見、職員かなと思うほど入居者と職員が一体化している雰囲気の中で食事時間が流れていた。今後は是非大切にしてもらいたい場面である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は全員がほとんど毎日している。中には嫌がる方もあるがうまくお誘いして入っていただいている。現段階では全員が歩ける状態であるが、身体状態が重度化していけば、今のお風呂では十分な介助が出来ないと思われる。今後を見据えての検討が望まれる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢者サロン、自治会の行事、グループホームの夕涼み会、クリスマス会等行事に参加することも多い。花見や外出に出かけたり、年に一回は家族も一緒に小旅行をしている。楽しみ事はいっぱい用意されている。食事の下準備、配膳など職員はその人ができそうなことを頼み、感謝しながら穏やかに見守っていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	決まった日程がない中で、買い物や散歩には良く出かけている。重度化してきているが、なるべく外に出るようにしている。また、個人的な外出は、手が回らない時は家族の協力を得て、外出していただいたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。お1人、まだ若く元気な方がおられるが、その方にはセコムを持っていただいている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導を受けながら、毎月1回避難訓練をしている。利用者も一緒に避難訓練をしたが、その時は全員しっかりしておられ、5分で済ませることができた。夜間の訓練はしていない。連絡網・マニュアルは出来ている。	○	近隣に職員が住んでいるが、夜間は夜勤者が一人になるので、ぜひ夜間の避難訓練もしてほしい。シュミレーションだけでなく実践することで思いも付かないことがおこりうる。近隣の住民の協力も得られるような避難訓練の取り組みも考えてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はほとんどの方がしっかり食べておられ、水分とともに記録されている。同法人のデイサービスの管理栄養士に、定期的に栄養バランスのチェックを受けている。飲み込むことがしにくくなってこられた方には皆と同じ食事をしていただいた後、吐き出されることが多いので栄養食のプリンなどで不足と思われる栄養を補っていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ごくごく普通の家の台所、居間である。使い慣れた年代物の食器棚が使われており、温かい雰囲気になっている。また、ソファ等もおかれ、それぞれの居場所作りが考えられている。廊下にも思い思いに座れる椅子が置かれていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの部屋の戸は、昔ながらの障子の引き戸になっていて、とても暖かで親しみやすい。漏れる光から中の様子を感じ取ることも出来る。すっきりと片付いた部屋、畳敷きの部屋、ベッドの部屋、思い思いに飾った部屋、それぞれの住人の個性のある居室となっていた。		